

# とねおねお 小合

## 「コミ協」遠望・近望

小合地域コミュニティ協議会 会長 阿部 繁

少子高齢化と人口減少の進む地域社会はどのように動いていくのか。年頭にあたり、コミ協周辺と私たちの役割を考察してみる。

1. 地域コミュニティは、伝統的には、自治会・町内会・婦人会・青年団・子ども会などの地縁団体が主な担い手であったが、社会経済の環境が変化の中で、地域の中で特定の目的を明確に持つ集団が形成され地縁団体と併存するようになり多様化している。(14自治会・町内会)

3. 公私の中間に位置する地域コミュニティが果たす機能。地域コミュニティは、個人・家庭といった私的な範囲よりは大きく、政府や自治体といった公的な範囲よりは小さく、地理的範囲・公共性ともに中間的なものとして以下のような機能を果たしてきたところである。①生活に関する相互扶助(福祉教育・防災等) ②伝統文化等の維持(工芸・祭等) 経済活動のみによつては維持できない特色・文化・景観などを地域コミュニティの活動を通じて維持する。③地域全体の課題に対する意見調整(まちづくり、治安維持等)皆で協力しないと実施できないような取組や利害調整を図る必要がある課題の意見調整を地域コミュニティの活動を通じて行う。特に、町内会などの地縁団体は、行政との連絡、道路の補修・清掃、害虫駆除の薬剤

散布を行う等「行政補完機能」も担ってきたところである。また、世代間交流の場としても、重要な機能を果たしてきたと言える。

4. 地域コミュニティの活動の衰退。地域コミュニティの役員や世話役を引き受ける人の減少、居住地域によつてつながっている集団よりは、スポーツ・趣味・特定の関心事など目的のはっきりした活動のための集団を志向する人が増加している。各地のサッカーによる地域興しなどは成功事例である。

また、地域活動が衰退する一方で、こうした特定の社会参加活動は増加している。これからの世の中では血縁や地縁・職縁以外に興味や嗜好などの好きなもので人々が繋がる時代が来る、つまり「自尊好縁社会」が到来すると書いているが時代はまさにその様相を呈している。「自尊好縁・満足化社会」の方程式を解く「堺屋太一(九九〇)

5. 地域コミュニティの衰退により生じる問題。個人や家庭の単位で解決できないような問題(家庭内暴力・虐待・非行・ひきこもり・病氣・障害・孤立・失業・貧困など)の深刻化の緩和や、災害等の危機的状況に対応する機能が失われる。家庭・個人による解決と、公的機関による解決(福祉・教育・雇用対策・司法・消防など)の間にあつた、中間的な解決機能が失われることにより、特に地域社会に問題が発生したときに住民の安全・安心が脅かされ、行政が対応すべき分野が広がることにもなりかねない。時代は移り今日、少子高齢化社会の進行。子育て・見守り・介護・健康寿命の維持や、ごみ・環境問題・自然災害からの避難訓練など地域社会の課題は山積みである。いま私たちの周りには現行制度の枠では収まり切れない多様な要望や課題が存在している。

6. 組織は力である。諸問題の解決の手段として、地縁血縁組織に近い自治会等を中心とした組織・地域のコミ協組織と行政が協働で取り組むことが求められており、地域社会の安全・安心のネットワークづくりが大切である。織物に例えれば「平織」。タテの糸(コミ協)とヨコの糸(自治会・町内会)が1本ずつ垂直に交わるように作られた組織で、縦横交互に糸がもう一本斜めに見える「綾織」のような緩やかだけど強い組織が構築される。そして「R460小合パイパスの早期開通」や「東幼稚園2021年閉園後の活用問題」のように地域課題に軸足をのけた活動を行うことにより地域の活性化の展望も開ける。加えて、「バブルがはじけて(1990年代)以降の地域社会のひとつの暮らし方として「清貧」な暮らしを試みる。「清貧とは、自らの思想の表現と意思により作りだされた最も簡素な生の形態である。たんなる貧乏ではない。」(「清貧の思想」中野幸次一九九六)

「参考文献」総務省「地域コミュニティの現状と課題」より一部引用



